

條約改正關係大日本外交文書 正 誤 表

卷 頁	欄	行	誤	正	卷 頁	欄	行	誤	正
一 卷 八 九	上	五	勅使	敕旨	附 錄 一 四	上	一〇	許されず	許さるゝし
二 卷 一 二	下	四	四年文	英文	四 八 八	下	旁記	conference	conference
四 六 二	"	七	(註記ヲ加フ)	明治二十年四月二十二日 ノ會議決定案ヲ修正セル ナリ	四 九 一	"	"	Voted by	Voted by
四 八 二	上	二	Go. vernment	Government	四 九 三	上	一	na	the
"	"	旁記	November	November	四 九 四	下	一七	character	character
"	"	"	November	"	"	"	一八	oh	Government of
"	"	"	V. ted	"	"	"	二	deen	been
"	"	"	conferences	conference	四 九 五	"	五	execution	execution
四 八 三	下	"	Regulations	Regulations	"	"	九	thet	that
四 八 四	上	八	when he	when the	四 九 九	下	一一	chosen	chosen
四 八 五	"	九	angue	language	"	"	一三	judges	judges
四 八 六	上	二〇	ascertaining	ascertaining	五 〇 一	上	一六	1889	1887
四 八 七	下	旁記	22nd	2nd	一 二 九 八	下	四	mentioned	mentioned
三 卷 目 次	三	二一	藤	加藤	三 三 一	上	一一	御任狀	御委任狀
一 四 七	上	一四	(註記ヲ加フ)	三二七別錄三附屬書參考	三 三 二	下	三	俊	侯
一 五 三	下	一四	裁判構成法	裁判所構成法	三 九 三	"	"	amendm. ent	amendment
一 五 四	上	一七	兼任	兼任	四 〇 三	上	一七	獨逸	獨逸
二 六 四	"	一三	大隈外務大臣ヨリ陸奥駐 米公使宛	陸奥駐米公使ヨリ大隈外 務大臣宛	五 〇 二	下	一五	五月二十八日	五月八日
二 七 三	上	末行	(註記ヲ加フ)	七九文書参照	五 〇 三	"	二	……會談	……氏ト會談
三 〇 一	"	"	誤解	誤解	六 八 七	"	六	佐藤愛磨	佐藤愛磨殿
三 一 三	乃至	柱	對米交渉	對獨交渉	七 六 四	"	三	佐藤愛磨	佐藤愛磨殿
三 一 八	乃至	柱	對米交渉	對獨交渉	七 七 六	乃至	柱	對英交渉	對米交渉

外務省調查局監修
日本學術振興會編纂

條約改正
關係

大日本外交文書
第三卷

日本外政協會發行

凡 例

一、本書は明治維新以來所謂陸奥條約の成立に至るまでの、本邦通商條約改正事業の眞相、改正商議の實狀を明白にする爲め、外務省の關係記錄に據つて編纂したものである。

二、外務省の當該記錄は左記綴込簿冊を主なるものとした。

一 自明治元年條約改正問題一件 七一冊
至明治二十六年

一日米、日英、日佛、其ノ他ノ諸國トノ通商條約改正一件 二七冊

一大隈外務大臣在職中條約改正ニ關スル處理沿革 一冊

一大隈外務大臣條約改正書類 一冊

一榎本外務大臣在職中條約改正ニ關スル處理沿革 一冊

一陸奥奧外務大臣條約改正日記 八冊

一條約改正ニ關シ帝國臣民建白一件 一冊

一改正條約實施準備ニ關スル事項取調方在歐米ノ各公使へ訓令一件 四冊

一改正條約實施準備一件 三冊

一 改正條約實施一件

一冊

一 自明治十五年 日墨通商航海條約締結一件
一 至明治二十三年

一冊

是れ一には此等の簿冊が、條約改正の経緯を最も能く盡して居る爲であり、又他面編纂に要する時日の關係上、偏く外務省一般書類を涉獵する暇がなかつたからである。

三、文書の採擇に當つては重複したもの、談判の進行にさまで重要でないものを除いて、他は殆く收載するを念としたのであつたが、書冊餘りに老大浩漭に亘るを以て、井上外務卿時代以後は、改正商議の全貌を窮知し得る英米獨佛墮伊露の七列強に重點を置き、他は關係文書の抄録に止めた。

四、明治初年より陸奥大臣改正談判の完結に至るまで三十餘年、其間外務長官の更迭、兼任臨時代攝を併せて十有六回を算して居る。本書に於ては便宜之を四卷に編綴し、明治十二年寺島外務卿の辭任までを第一卷、明治二十年井上外務大臣の挂冠までを第二卷、明治二十一年以降同二十五年に至る大隈、青木、榎本外務大臣時代を第三卷、明治二十六年以降陸奥外務大臣時代を第四卷に收めた。而して第一卷には参照の便に資する爲め、卷末に安政以降の舊條約中主要なものを登載し、第三卷には改正交渉の進

捗を助長し得たと認められる、日墨通商航海條約締結一件並に日葡條約中一部條款廢棄一件を抄録して附録とした。

別に井上伯が東京に於て諸外國使臣と會同商議した條約改正豫備會議並に本會議の議事録を和歐文別冊二卷として收録し、更に概要一卷を添へて檢索に供ふ。

五、本書各卷文書收録の體裁は必しも揆を一にして居ない。井上伯及大隈伯の時代に共通の章を設けたが陸奥伯時代に在つては之を設けなかつた。蓋し井上伯の交渉は専ら綜合談判の形式にて行はれ、大隈伯の時代には談判は國別主義に據つたけれども、各國の間殆んど同時に開談せられ、幾多共通の文書がある。之に反し陸奥伯時代に至つては、交渉は英國を最初とし、其の略ぼ成るに及んで爾餘の諸國との間に商議が開始せられてゐる。かゝる狀況の相違は自然收録の體裁を異にした所以である。

六、諸公信及來往電信中に他の文書電信を引用したものは概ね1、2、等を旁記し各文書末尾に本書に於ける文書番號を註記して参照檢出に便した。

七、收録の文書は原文を尊重して忠實に謄寫し、猥りに改竄を加へる等のことはしなかつたが、一文中に混淆使用せられた假名の書體は一に改めた。又昔日の語句用例で、今

日其の意の通じ難きもの、及び誤解の虞あるものに就いては、(マ、)(sic)等適宜旁註を施し、缺字と思はれるものは()括弧を以て之を補ひ、衍字と認められるものは□粹を加へて之を標した。

八、本第三巻收録するところ大隈青木榎本三大臣の時代に亘る。大隈伯は霞ヶ關の凶變に事實失脚蹉跎の難に遇ひ、青木子亦湖南事件に引責離任し、條約改正の事業は成るに垂んとして成らず徒に逆逗を續けた。榎本子の條約案委員會は幕外ながら漸く大詰の段取となる。

附録とした日墨締約一件と日葡條款廢棄一件とは、亦自ら條約改正別個の道行である。九、條約改正は一面新日本の解放であり、一面新日本の建設であつて、正に興亞外交の先蹤をなすものである。復古精神の歴史的な波と開國思想の地理的な波との交錯翻騰する只中に、變理經營した明治當局施策の痕こそ、今日大東亞の解放と建設とを提唱するに當つて再檢討を要するところである。

昭和十九年七月二十五日

編 者 誌

條約改正
關係

大日本外交文書

第三卷

目 次

第五章 大隈外務大臣時代

第一節 一般的經過	一
第二節 對 米 交 渉	二五五
第三節 對 獨 交 渉	三一二
第四節 對 露 交 渉	四五五
第五節 對 英 交 渉	四六九
第六節 對 佛 交 渉	五四七

第七節 對 奧 交 涉	五九五
-------------	-----

第八節 對 伊 交 涉	六〇七
-------------	-----

第六章 青木外務大臣時代	六二六
--------------	-----

第一節 對英交涉其他	六二六
------------	-----

第二節 對 米 交 涉	七五五
-------------	-----

第七章 榎本外務大臣時代	七七六
--------------	-----

附 錄

一、日墨條約締結一件	八七七
------------	-----

二、日葡條約中一部條款廢棄一件	
-----------------	--

條約改正 關 係 大日本外交文書 第三卷 目次終	
--------------------------------	--

目 次 細 目

第五章 大隈外務大臣時代

第一節 一般的經過

番 號	日	宛 名 其 他	事 項
一	明治二十一年十一月二十六日	大隈外務大臣 獨逸代理公使 會談記	新條約締結方ニ關シ獨逸代理公使ト内談ノ件
二	明治二十一年十二月七日	大隈外務大臣ヨリ 在米英帝國公使宛	三好評定官紹介ノ件
三	明治二十一年十二月十八日	大隈外務大臣 會談記	新條約締結方ニ關シ、國公使ト内談ノ件
四	明治二十一年十二月十六日	米國公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約調印日時ニ關シ照會ノ件
		附屬書 二十一年十二月十九日附在本邦 米國公使ヨリ國務卿宛電報	
五	明治二十一年十二月二十八日	大隈外務大臣ヨリ 米國公使宛	新條約調印日時ニ關シ回答ノ件
六	明治二十一年十二月二十九日	大隈代理公使 會談記	新條約締結方ニ關シ英國公使ト内談ノ件
七	明治二十一年十二月二十九日	大隈外務大臣 會談記 佛國公使	新條約締結方ニ關シ佛國公使ト内談ノ件

八 十明治二十一年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
佛國公使宛

條約改正新案送附ノ件……………一〇

九 十明治二十一年九月一日

大隈外務大臣 會談記
露國公使宛新條約締結方ニ關シ露國公使下内談
ノ件……………一〇

一〇 一明治二十二年七月一日

大隈外務大臣ヨリ
在英佛露伊埃帝國公使宛

新條約締結方ノ儀ニ付訓令ノ件……………一一

一一 一明治二十二年七月一日

佛國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

條約改正新案ニ付質疑ノ件……………一四

附屬書 新條約案ニ對スル佛國公使ノ質疑書……………一六

一二 一明治二十二年八月一日

佛國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

大審院ノ權限内ニ關シ照會ノ件……………三〇

一三 二明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
佛國公使宛

新草案ノ質疑ニ關シ回答ノ件……………三一

附屬書

新條約案ニ關シ佛國公使ノ質疑ニ對スル外務大臣ノ答辯……………三三

一四 二明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
佛國公使宛大審院ノ權限ニ關スル照會ニ付回答
ノ件……………四一

一五 二明治二十二年九月一日

米國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

調印日時問合セノ件……………四二

一六 二明治二十二年九月一日

米國公使宛
大隈外務大臣ヨリ

調印日時通知ノ件……………四三

一七 二明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
黑田總理大臣宛

日米條約調印ノ件……………四四

附屬書

上奏案……………四四

二 日米和親通商及航海條約……………四五

三 輸入税目……………五六

四 外人判事任用ニ關スル宣言……………八二

五 法典編纂及翻譯ニ關スル宣言……………八四

六 輸入税噸稅及燈稅ニ關スル宣言……………八五

一八 二明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
在獨英帝國公使宛日米條約調印遷延事情内報旁日獨
(日英)條約調印促進方ニ付訓令ノ件……………八七

附屬書

米國ト締結ノ條約中原案ニ修正ヲ加ヘシ廉……………八九

一九 二明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
在佛埃伊露各帝國公使宛

日米條約調印濟ノ件……………九〇

二〇 二明治二十二年九月一日

佛國公使ヨリ
大隈外務大臣宛新條約案ニ對スル質疑其他ニ關スル
件……………九〇

二一 三明治二十二年九月一日

佛國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

條約改正交渉地ニ關スル件……………一〇〇

二二 三明治二十二年九月一日

佛國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

條約改正交渉地ニ關スル件……………一〇二

二三 三明治二十二年九月一日

露國公使ヨリ
大隈外務大臣宛

新條約締結交渉開始方ニ關スル件……………一〇三

附屬書

三月七日附露國政府ヨリ在本邦同國公使宛訓電佛譯文……………一〇三

二四 三明治二十二年九月一日

大隈外務大臣ヨリ
露國公使宛

新條約締結交渉開始方ニ關スル件……………一〇四

二五 三明治二十二年九月一日

陸奥駐米公使ヨリ
陸奥秘書官宛日米條約ニ關スル新任米國公使ノ態
度報告ノ件……………一〇四

附屬書

二十二年三月二十八日附スチブンス報告書……………一〇七

二六 三明治二十二年九月一日

陸奥駐米公使ヨリ
大隈外務大臣宛外人裁判官任用ニ關スル憲法上ノ擬
議ニ關スル件……………一〇七

目次細目

四

二七 三月 治 二 二十二年 日年
二八 三月 治 二 二十二年 日年

西駐露公使ヨリ
大限外務大臣宛(電)
西駐露公使ヨリ
大臣外務大臣宛

英國政府ノ回章ニ關スル件……………一〇八
英國政府ノ回章ニ關スル露國ノ態度
ニ關スル件……………一一〇

附屬書一 二十二年三月七日(陽曆三月十九日)在露英國公使ヨリ露國外務
大臣宛ノ書翰……………一一一
二 二十二年三月六日英國外務大臣ヨリ在露同國公使宛ノ書翰……………一二二

二九 四月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
西駐露公使宛

條約改正ニ關スル英國ノ回章ニ關ス
ル件……………一二六

三〇 四月 治 二 二十二年 日年

西園寺駐獨公使ヨリ
大限外務大臣宛(電)

英國政府ノ回文ニ關スル件……………一二七

三一 四月 治 二 二十二年 日年

西園寺駐獨公使ヨリ
大限外務大臣宛

英國政府意見書寫送附ノ件……………一二七

三二 六月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
黑田總理大臣宛

日獨條約調印ノ件……………一二八

三三 六月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

日獨條約調印濟ノ件……………一二八

三四 六月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
在歐米各帝國公使宛

日獨條約調印濟ノ件……………一二九

三五 六月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
陸奥駐米公使宛

獨逸政府ノ修正案ニ關スル件……………一二九

三六 七月 治 二 二十二年 日年

露國公使ヨリ
大限外務大臣宛

面會時日間合ノ件……………一二〇

三六 七月 治 二 二十二年 日年

露國公使ヨリ
大限外務大臣宛

面會時日間合ノ件……………一二〇

三七 七月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
露國公使宛

面會時日回答ノ件……………一二一

三八 七月 治 二 二十二年 日年

露國公使ヨリ
大限外務大臣宛

法典編纂及外人判事任用ニ關スル宣
言書辭退ノ件……………一二一

三九 七月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
露國公使宛

宣言書辭退ノ申出ニ對シ回答ノ件……………一二四

四〇 七月 治 二 二十二年 日年

露國公使ヨリ
大限外務大臣宛

新條約調印日時照會ノ件……………一二五

四一 七月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
露國公使宛

新條約調印日時通知ノ件……………一二六

四二 七月 治 二 二十二年 日年

露國公使ヨリ
大限外務大臣宛

新稅案受諾ノ件……………一二六

四三 七月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
露國公使宛

新稅目ニ調印方ノ件……………一二七

四四 八月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
黑田總理大臣宛

日露條約調印ノ件……………一二七

附屬書一 和親通商及航海條約……………一二八

二 別約……………一二八

三 露國公使宛往翰……………一四〇

四 露國公使來翰……………一四一

五 露國公使宛往翰……………一四三

六 露國公使宛往翰……………一四三

七 外務大臣宣言書……………一四四

四五 八月 治 二 二十二年 日年

大限外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

日露條約調印濟ノ件……………一四五

目次細目

五

四六	八月二十九年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛	日露新條約調印ノ件	一四五
四七	七月三十一日	英國公使ヨリ 大隈外務大臣宛	英國政府ノ修正案提出ノ件	一四六
四八	八月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 英國公使宛	談判日時通知ノ件	一四七
四九	八月二十四日	大隈外務大臣 英公使フレザー 談判記	其一、其二、其三	一五三
五〇	五月二十四日	大隈外務大臣ヨリ 陸奥駐米公使宛	外人判事任用ニ關スル憲法上ノ疑義 ニ關スル件	一五三
五一	八月二十二日	陸奥駐米公使ヨリ 加藤祕書官宛	日米新條約ニ關スル件	一五三
五二	十月十七日	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛	佛國公使ト會談ノ經過及對佛交渉方 針ニ關スル件	一五六
五三	十月十八日	大隈外務大臣遭難		一五九

別錄

一	七月四日附井上毅意見書	一六〇
二	歸化法制定ニ關スル議	一六〇
三	國民身分法試案	一六二
四	八月二十二日附井上毅意見書	一六七
五	新條約案ニ對スルロエスレル意見書	一七一
六	條約改正ヨリ生ジタル困難ヲ避クルタメノ三様ノ方法ニ關ス ルロエスレル意見書	一七七
七	九月二十五日附國際條約ノ廢棄ニ關スルロエスレル意見書	一八一
八	デニソン條約廢棄論	一九五
九	十月十八日附後藤象二郎奏議	二三〇

五四	十月二十二日	閣議決定書
----	--------	-------

閣議決定書

外交政策ニ關シ閣議決定ノ件

二三五

附屬書一 閣議案

二 意見書摘要

二三八

五五	十月二十二日	三條總理大臣ヨリ 在米獨露各帝國公使宛	電信訓令翻譯文	二四〇
五六	十月二十二日	三條總理大臣 露國公使トノ應接筆記	露國公使館ニ於テ	二四二
五七	十月二十四日	三條總理大臣 米國公使トノ應接筆記	米國公使館ニ於テ	二四三
五八	十月二十四日	三條總理大臣 獨逸公使トノ應接筆記	獨逸公使館ニ於テ	二四四
五九	十月二十四日	外務省覺書	條約實施時日延期ノ手續及其理由書	二四五
六〇	十月二十二日	青木外務次官ヨリ 在米露各帝國公使宛	新條約實施延期方ノ件	二四七
六一	十月二十二日	井上駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	新條約實施延期ノ件	二四七
六二	十月二十八日	井上駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約實施延期ノ件	二四八
六三	十月二十九日	三條總理大臣 露國公使トノ應接筆記	總理大臣官邸ニ於テ	二四九
六四	十月二十九日	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	新條約實施延期ノ件	二五〇
六五	十月三十一日	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約實施延期ノ件	二五一

第三節 對 獨 交 涉

一一一	一明 治 二 十 一 年 十 月 十 六 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	新條約締結交渉開始ニ付訓令ノ件……………	三二二
一一二	一明 治 二 十 一 年 十 月 三 十 一 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	日米交渉ニ關聯シ日獨改正商議ニ關 スル件……………	三一五
一一三	一明 治 二 十 二 年 一 月 七 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	米獨同時調印ノ運ヒニ至ルヘキ様交 渉方ノ件……………	三一五
一一四	一明 治 二 十 二 年 一 月 七 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	對獨交渉促進方ニ付訓令ノ件……………	三一六
一一五	一明 治 二 十 二 年 一 月 八 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ意向ニ關スル件……………	三一八
一一六	一明 治 二 十 二 年 一 月 九 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	シーボルトノ地位ニ關スル件……………	三一八
一一七	一明 治 二 十 二 年 一 月 九 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	草案提示ノ日取ニ關スル件……………	三一八
一一八	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 二 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸公使ヘ草案ヲ交付セシ日取問合 セノ件……………	三一九
一一九	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 二 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	前電回答……………	三一九
一二〇	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 五 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	在英岡部公使ヘ書類寫回送方ノ件……………	三一九
一二一	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 六 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答竝ニ全權委員ニ關ス ル件……………	三二〇
一二二	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 六 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	伯林商議ニ關スル件……………	三二〇

一二三	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 七 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	シーボルト委任ニ關スル件……………	三二一
一二四	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 七 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答振報告ノ件……………	三二一
一二五	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 八 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	我提案ニ對スル獨逸政府ノ回答振 付報告ノ件……………	三二一
一二六	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 八 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	シーボルト委任ニ關シ回答ノ件……………	三二二
一二七	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 八 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	最惠國條款ニ關スル件……………	三二三
一二八	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 二 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	西公使ヘ書類回送方ノ件……………	三二三
一二九	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 三 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	交渉ノ公式應諾ヲ催告セル件……………	三二四
一三〇	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 五 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	伯林交渉應諾ニ關スル件……………	三二四
一三一	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 五 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	我提案ニ對スル獨逸政府ノ回答書送 付ノ件……………	三二四
一三二	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 六 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府催告ニ關スル件……………	三二七
一三三	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 八 日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	憲法發布ニ關スル件……………	三二八
一三四	一明 治 二 十 二 年 一 月 十 九 日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	ベルヘム伯ト會談要領報告ノ件……………	三二九

附屬書 獨逸政府回答書翰

一三五	一明	治三十一日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	改正簡條ニ對スル獨逸政府ノ意向ニ 關スル件	三二九
一三六	一明	治三十一日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	改正條約米政府承引ニ付獨逸政府 時調印ヲ要望スル件	三三〇
一三七	二明	治二月二日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ修正公式提示ヲ期待スル ノ件	三三一
一三八	二明	治二月五日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	全權御委任狀差進ノ件	三三一
一三九	二明	治二月五日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	電信寫送付ノ件	三三二
一四〇	二明	治二月八日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答遅延ニ關スル件	三三二
一四一	二明	治二月十二日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	日米條約調印濟ノ件	三三三
一四二	二明	治二月十一日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ修正探聞ニ關スル件	三三三
一四三	二明	治二月十三日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ修正案電報竝ニ郵送方ノ 件	三三三
一四四	三明	治二月十六日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ修正案催促ノ件	三三四
一四五	三明	治二月十八日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ修正公報未領ノ件	三三四
一四六	三明	治二月十八日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	草案修正並ニ伯林ニテ英文假條約締 結ニ關スル件	三三四
一四七	三明	治二月二十一日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	伯林ニ於テハ假條約ノ調印ニ止ムヘ キ旨訓令ノ件	三三五

一四八	三明	治二月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	伯林調印ニ關スル件	三三七
一四九	三明	治二月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ回答遷延事情問合ノ件	三三七
一五〇	三明	治二月二十六日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答遷延事情回報ノ件	三三七
一五一	三明	治二月二十七日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	司法省ノ異議探問方並ニ英國ノ回文 ニ關スル件	三三八
一五二	三明	治二月二十八日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	司法省ノ修正ニ關スル件	三三八
一五三	四明	治二月二十二日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答受領ノ件	三三九
一五四	乃四明	治二月十七日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ回答(一、二、三、四、 五)	三三九
一五五	四明	治二月二十二日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	我提案ニ對スル獨逸政府ノ回答書送 附ノ件	三四三

附屬書一 四月一日付ベルヘム伯來翰

二 ベルヘム伯來翰附屬覽書

一五六	四明	治二月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	意見報告催促ノ件	三六六
一五七	四明	治二月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	獨逸政府ノ修正條項ニ關シ訓令ノ件	三六六
一五八	四明	治二月二十六日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	意見上申ノ件	三六七
一五九	四明	治二月二十二日	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	西園寺公使ノ意見ニ對スル答書竝ニ 訓令ノ件	三六八

一六〇	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	第五條復問ノ件	三七二
一六一	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	第五條ニ關シ回答ノ件	三七二
一六二	五明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	獨逸政府ノ修正條項ニ關シ訓令ノ件	三七三
一六三	五明治二十二年	附屬書 獨逸政府ノ修正ニ關スル我政府覺書		三七三
一六四	五明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	我修正案ニ對スル獨逸政府ノ態度報告方訓令ノ件	三八三
一六五	五明治二十二年	大隈外務大臣宛(電) 西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	獨逸政府ヘ覺書提示ノ件	三八三
一六六	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ヘ覺書提示ノ件	三八三
一六七	五明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	附屬書 五月八日西園寺公使ヨリ獨逸政府ヘ提出ノ覺書	三八四
一六八	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	船舶測量ニ關スル件	三九二
一六九	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	船舶測量ニ關スル回答ノ件	三九二
一七〇	五明治二十二年	獨逸公使ヨリ 大隈外務大臣宛	我修正案ニ對スル獨逸政府ノ態度內報ノ件	三九二
一七一	五明治二十二年	獨逸公使ヨリ 大隈外務大臣ヨリ 獨逸公使宛	我修正ニ對スル獨逸政府ノ意向ニ關スル件	三九三
			條約案文ノ疑義ニ關シ照會ノ件	三九三
			條約案文ノ疑義ニ付回答ノ件	三九六

一七二	五明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ回答通報ノ件	三九八
一七三	五明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	獨逸政府ノ回答ニ對シ訓令ノ件	四〇〇
一七四	六明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	貿易規則倉庫規則ニ關シ請訓ノ件	四〇二
一七五	六明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	二十三條ニ關スル件	四〇二
一七六	六明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	獨逸政府ノ我提案承認ニ關スル件	四〇二
一七七	六明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	最惠國條款承認並ニ二十三條ノ取扱ニ關シ訓示ノ件	四〇三
一七八	六明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛	獨逸側ノ修正要求並ニ之ニ對スル當方ノ意圖ニ付訓令ノ件	四〇三
一七九	六明治二十二年	大隈外務大臣宛(電) 西園寺駐獨公使ヨリ	二十三條削除ニ關スル件	四〇五
一八〇	六明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西園寺駐獨公使宛(電)	稅則ニ關スル件	四〇五
一八一	六明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	日獨條約調印ノ件	四〇六
一八二	六明治二十二年	西園寺駐獨公使ヨリ 大隈外務大臣宛	日獨條約調印濟ノ件	四〇六

附屬書一 日獨和親通商及航海條約

二 獨逸外務大臣宛書翰(一)

裁判權ニ關スル宣言

三 獨逸外務大臣宛書翰(二)

法典編纂ニ關スル宣言

四 獨逸外務大臣宛書翰(三)

追加締約ニ關スル宣言

五 獨逸外務大臣來翰

謝意表明方ノ件

條約締結始末報告ノ件

附屬書 條約改正始末紀事報告

調印濟ノ條約書及附屬書類領收ノ件

條約書及附屬書類ノ誤記其他ニ關シ
訓令ノ件

附屬書一 獨逸政府へ提出スヘキ覺書案文

二 右覺書案譯文

條約書及附屬書類ノ誤記其他ニ關ス
ル件

覺書提出ニツイテ意見上申ノ件

覺書提出ノニ關スル件

船舶測度相互免除ノ件

私設倉庫設立ノ件

貿易規則官設倉庫規則及港則約定ノ
件

議定書及公文寫送附ノ件

日獨條約獨逸議會ニ提出ノ有無問合
セノ件

前電回答

第四節 對 露 交 涉

一八三 六明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛(電)

四三〇

一八四 六明治二十二年 日年

大隈外務大臣宛

四三〇

一八五 八明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛

四四四

一八六 八明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛

四四五

一八七 九明治二十二年 日年

西園寺駐獨公使ヨリ
大隈外務大臣宛

四四九

一八八 九明治二十二年 日年

西園寺駐獨公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

四五二

一八九 九明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛(電)

四五二

一九〇 十明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
獨逸公使宛

四五二

一九一 十明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
獨逸公使宛

四五三

一九二 十明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛

四五四

一九三 十明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛

四五四

一九四 十明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西園寺駐獨公使宛(電)

四五四

一九五 十明治二十二年 日年

西園寺駐獨公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

四五五

一九六 一明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五五

一九七 一明治二十二年 日年

大隈外務大臣宛

四五六

一九八 二明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五七

一九九 三明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五七

二〇〇 三明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五七

二〇一 三明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五八

二〇二 三明治二十二年 日年

大隈外務大臣宛

四五八

二〇三 四明治二十二年 日年

大隈外務大臣ヨリ
西駐露公使宛(電)

四五九

目次細目

二〇

二〇四	四明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	最惠國條款ニ關スル件	四五九
二〇五	四明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛	最惠國條款問題ト露國政府ノ態度ニ 關スル件	四六〇
二〇六	六明治二十二年	西駐露公使宛(電)	口燭條約調印濟通知並ニ交渉促進方 訓令ノ件	四六三
二〇七	六明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	露國政府交渉準備進捗ト最惠國條款 問題ニ關スル件	四六三
二〇八	六明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	露國政府交渉準備完了ト最惠國條款 問題ニ關スル件	四六三
二〇九	六明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣宛	露國ノ全權委任狀下附遷延事情ニ付 報告ノ件	四六四
二一〇	七明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西駐露公使宛(電)	新條約調印便法ニ付露國政府ヘ交渉 方ノ件	四六五
二一一	七明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 西駐露公使宛(電)	露國公使ノ宣言書辭退ノ申出ニ關ス ル件	四六六
二一二	八明治二十二年	西駐露公使ヨリ 大隈外務大臣ヨリ	日露新條約調印濟ノ件	四六六
二一三	八明治二十二年	西駐露公使宛	噸稅及燈臺稅ニ關スル件	四六八
二一四	十明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理大使宛(電)	新條約案ニ依リ交渉開始方英政府ニ 申入ノ件	四六九
二一五	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	交渉申入ニ關シ請訓ノ件	四七〇

第五節 對英交涉

二二六	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	回訓並ニ英政府ノ態度打診方訓令ノ 件	四七〇
二二七	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	條約改正交渉開始方英政府ニ申入ノ 件	四七一
二二八	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛	新條約案受諾ノ義英國要路ニ入説方 訓令ノ件	四七一
二二九	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英政府ノ態度ニ關スル件	四七三
二三〇	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	交渉促進方及最惠國條款ニ關シ訓令 ノ件	四七三
二三一	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	取急ギ草案提出方訓令ノ件	四七四
二三二	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	草案提出方督促ノ件	四七五
二三三	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	草案提出ニ關スル件	四七五
二三四	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	草案提出完了ノ件	四七五
二三五	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	交渉開始方英政府ヘ申入ノ件	四七五
二三六	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝ノ經過報告ノ件	四七六
二三七	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	附屬書 一月十日付英國外務大臣來翰	四七八
二三八	一明治二十二年	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	憲法發布前ニ調印方交渉ノ件	四七九
			外務次官トノ面談ノ件	四七九

目次細目

二二九	二明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	交渉促進ニ關シ請訓ノ件	四七九
二三〇	二明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝ノ經過報告ノ件	四八〇
二三一	二明	治月二十四日	岡部駐英代理公使宛(電)	改正草案ニ關シ訓令ノ件	四八〇
二三二	二明	治月二十四日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	新草案ノ條款ニ關スル件	四八一
二三三	二明	治月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	新草案ノ條款ニ關シ回答ノ件	四八一
二三四	二明	治月二十五日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英政府ノ態度ニ關スル件	四八一
二三五	二明	治月二十七日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英政府ノ回答ニ關スル件	四八一
二三六	二明	治月二十三日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝ノ經過報告ノ件	四八二
二三七	二明	治月二十三日	附屬書 二月六日付英國外務大臣來翰 大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	接衝促進方及最惠國條款ニ關シ訓令ノ件	四八二
二三八	二明	治月二十五日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	日米條約批准ニ關シ問合セノ件	四八四
二三九	二明	治月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	日米條約批准問合セニ關シ回答ノ件	四八五
二四〇	二明	治月二十六日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	前雷問合セ事情答申ノ件	四八五
二四一	二明	治月二十八日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	交渉促進方訓令ノ件	四八五

二四二	二明	治月二十八日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	準備交渉遲滯ニ關スル件	四八五
二四三	二明	治月二十九日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英國外務次官ノ情報ニ關スル件	四八六
二四四	二明	治月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	日米調印終了通知及英國政府説得方訓令ノ件	四八六
二四五	二明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝ノ經過報告ノ件	四八七
二四六	二明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	最惠國條款其他ニ對スル英國側態度ニ關スル件	四八九
二四七	二明	治月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	最惠國條款其他ニ對スル日本側ノ態度闡明ノ件	四九〇
二四八	二明	治月二十八日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	會談開始方受諾及最惠國條款ニ關スル件	四九一
二四九	三明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	最惠國條款ニ關スル件	四九一
二五〇	三明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝經過報告ノ件	四九二
二五一	三明	治月二十二日	附屬書 二月二十六日付英國外務大臣來翰 岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	開談遲延並ニ英國公使赴任ニ關スル件	四九五
二五二	三明	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	公式用書差出方ニ關シ請訓ノ件	四九五
二五三	三明	治月二十四日	名限外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	公式返書ニ關スル回訓並ニ情報問合セノ件	四九六
二五四	三明	治月二十四日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	情報申報ノ件	四九六

二五五	三	治月二十九日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	英政府ト接衝ノ經過報告ノ件	四九六
二五六	三	治月二十一日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	英商トーマス氏紹介ノ件	五〇〇
二五七	三	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英國公使赴任ノ件	五〇一
二五八	三	治月二十九日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	接衝暫時休止ノ件	五〇一
二五九	五	治月二十八日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	トレンチ及トーマス氏ト會談ノ件	五〇二
二六〇	五	治月二十八日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	トレンチ及トーマス會談ノ件	五〇三
二六一	五	報月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	英國公使拜謁及英政府催告ニ關スル件	五〇三
二六二	五	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英政府ノ回答振ニ關スル件	五〇三
二六三	五	治月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	英政府ノ對案ニ關シ問合セノ件	五〇三
二六四	五	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	英政府ノ對案ニ關シ回申ノ件	五〇四
二六五	五	治月二十五日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	英政府ト接衝ノ經過報告ノ件	五〇四
二六六	五	治月二十八日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	附屬書一 五月十一日附英外務大臣宛往翰 五月十七日附英外務大臣返翰 最惠國條款ニ關シ英外務大臣來書ノ件	五〇五 五〇六 五〇六

二六七	六	治月二十一日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	最惠國條款問題ニ付英政府ヨリ回答ノ件	五〇七
二六八	六	治月二十五日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛	英國政府ノ回章ニ關スル件	五〇八
二六九	六	治月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	改正案並訓令電通方申入レノ件	五一〇
二七〇	七	治月二十三日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	交渉開始方承諾ノ件	五一一
二七一	七	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	談判開始準備完了ノ旨英政府ヨリ來報ノ件	五一一
二七二	五	治月三十一日	加藤外務大臣秘書官ヨリ 岡部駐英代理公使宛	英外務大臣宛書翰訂正方ノ件	五一二
二七三	七	治月二十二日	岡部駐英代理公使ヨリ 加藤外務大臣秘書官宛	英外務大臣宛往翰訂正方ノ件	五一二
二七四	八	治月二十八日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛(電)	附屬書 七月八日附英外務次官來翰	五一三
二七五	八	治月二十二日	大隈外務大臣ヨリ 岡部駐英代理公使宛	英國公使ト會談ノ件	五一三
二七六	八	治月二十四日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	英國公使ト談判ノ景況ニ關スル件	五一四
二七七	九	治月二十四日	岡部駐英代理公使ヨリ 大隈外務大臣宛	英政府ノ訓令ニ關スル件	五一六
			英國ノ修正案ニ付懇談方ノ件	別錄 英國外交文書	五一六 五一七

第六節 對 佛 交 涉

二七八	一明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛	對佛交涉心得訓示ノ件……………	五四七
二七九	二明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛	東京ニ於ケル交渉ノ概況及此後ノ對 佛交渉方針ニ付訓令ノ件……………	五四八
二八〇	二明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛(電)	日米條約調印濟ノ件……………	五五六
二八一	二明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約案ニ付商務局長ト開談ノ件……………	五五六
二八二	二明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國外務大臣ト會談ノ件……………	五五七
二八三	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣(宛)	新條約案ニ依ル交渉開始方ニ付佛國 外務大臣ト會談ノ件……………	五五八
二八四	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國公使ノ質問ニ關スル件……………	五六〇
二八五	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約案ニ付佛國外務大臣ト會談ノ 件……………	五六〇
二八六	三明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛(電)	佛國公使ヘノ回答ニ關スル件……………	五六一
二八七	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國外務大臣ノ回答振ニ關スル件……………	五六一
二八八	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約案ニ付佛國外務大臣ト會談ノ 件……………	五六一
二八九	三明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛(電)	佛國外務大臣ノ訓令内容確メ方ノ件……………	五六二

二九〇	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	佛國外務大臣ノ訓令内容ニ關スル件……………	五六三
二九一	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	交渉開始方ニ關スル佛國外務大臣ノ 訓令ニ關スル件……………	五六三
二九二	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國公使ノ口吻ニ關スル件……………	五六五
二九三	三明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	在本邦佛國公使ノ態度ニ關スル件……………	五六五
二九四	四明治二十二年	田中駐佛公使宛(電)	佛國公使ノ態度ニ關スル件……………	五六六
二九五	四明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國公使ノ口吻ニ關シ再應照會ノ件……………	五六六
二九六	四明治二十二年	田中駐佛公使宛(電)	佛國外務大臣ヘ掛合方ニ關スル件……………	五六七
二九七	四明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國外務大臣ト會談ノ件……………	五六七
二九八	四明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	新條約案ノ國別交渉主義ニ關シ佛國 外務大臣ト會談ノ件……………	五六八
二九九	四明治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 田中駐佛公使宛	交渉開始方在本邦佛國公使ヘ電訓方 ノ件……………	五六九
三〇〇	四明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國公使ヘ再訓令ニ關スル件……………	五七二
三〇一	四明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛	交渉開始方在本邦佛國公使ヘ再訓令 ノ件……………	五七二
三〇二	五明治二十二年	田中駐佛公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	佛國公使ヘノ訓令ニ關スル件……………	五七四

三〇三 五月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛交渉開始方ニ關スル在本邦佛國公使
ヘノ訓令ニ關スル件……………五七四

三〇四 六月 治二十二年

大隈外務大臣ヨリ
田中駐佛公使宛

各國トノ交渉進捗状況通報ノ件……………五七六

三〇五 七月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛新條約交渉促進方ニ付佛國外相ト會
談ノ件……………五七八

附屬書

三〇六 七月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛六月十九日田中公使ヨリ佛國外務大臣ヘ提出ノ覺書……………五七八
東京ニ於ケル新條約交渉ニ付佛國外
相ヨリ來翰ノ件……………五八〇

附屬書

三〇七 七月 治二十二年

大隈外務大臣ヨリ
田中駐佛公使宛

佛國公使トノ交渉經過通報ノ件……………五八一

三〇八 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛

佛國外務當局トノ交渉經過報告ノ件……………五八三

附屬書一

二

八月三十一日附田中公使ヨリ佛外務省商務局長宛往信……………五八四
九月三日附佛外務省商務局長來信……………五八五

三〇九 九月 治二十二年

大隈外務大臣ヨリ
田中駐佛公使宛(電)佛國公使トノ交渉經過通報併テ佛國
政府ト談判方訓示ノ件……………五八六

三一〇 九月 治二十二年

大隈外務大臣ヨリ
田中駐佛公使宛(電)

交渉督促ノ件……………五八七

三一〇 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

事情回答ノ件……………五八七

三一一 九月 治二十二年

大隈外務大臣ヨリ
田中駐佛公使宛(電)對英交渉ノ經過ヲ報シ併テ佛國政府
ヘ交渉催告ノ件……………五八八

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

佛國ノ條件付全權委任ニ關スル件……………五八八

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)佛國外務當局トノ交渉ノ經過報告ノ
件……………五八八

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

全權委任電訓方交渉ニ關スル件……………五九〇

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

佛政府ノ電訓拒否ニ關スル件……………五九〇

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)

佛國當局トノ交渉ノ經過報告ノ件……………五九一

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)十七條(修正十八條)ノ文言ニ關シ
佛政府回答振ノ件……………五九三

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)日本法權ニ服従スルノ宣言ニ關スル
件……………五九三

三一二 九月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛(電)交渉促進ノ爲メ訓電發送方ニ關スル
件……………五九四

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛

十月十六日附佛外務省商務局長來信……………五九四

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛我提案ニ對スル佛國政府ノ回答振ニ
關スル件……………五九五

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛

佛國政府部内ノ情報ニ關スル件……………五九六

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛我提案ニ對スル佛國ノ回答振報告ノ
件……………五九六

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛我提案ニ對スル佛國政府ノ回答振ニ
關スル件……………五九五

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛

佛國當局トノ交渉ノ經過報告ノ件……………五九一

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛十七條(修正十八條)ノ文言ニ關シ
佛政府回答振ノ件……………五九三

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛日本法權ニ服従スルノ宣言ニ關スル
件……………五九三

三二〇 十月 治二十二年

田中駐佛公使ヨリ
大隈外務大臣宛交渉促進ノ爲メ訓電發送方ニ關スル
件……………五九四

第七節 對 奧 交 涉

目次細目

三〇

三二四	四月 治二十六年	大隈外務大臣ヨリ 戸田駐塙公使宛	附屬書 三月十八日附塙國外務次官來翰 塙國政府ノ要求辨駁方訓令ノ件	五九七 六〇〇
三二五	五月 治二十八年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	二 四月四日附塙商公使宛來翰 塙國政府ノ意向内報ノ件	六〇二 六〇三
三二六	六月 治二十八年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	三 四月四日附塙國公使來翰 交涉開始督促方訓令ノ件	六〇二 六〇三 六〇四
三二七	六月 治二十九年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	塙國政府ノ回答ニ關スル件	六〇四
三二八	六月 治二十九年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	談判開始時期問合セ方訓令ノ件	六〇五
三二九	六月 治二十九年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	塙國政府ノ回答遅延ニ關スル件	六〇五
三三〇	七月 治二十八年	大隈外務大臣ヨリ 戸田駐塙公使宛(電)	開談督促方ノ件	六〇五
三三一	七月 治二十九年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	塙國政府ノ回答遷延事情ニ關スル件	六〇五
三三二	七月 治二十九年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛	塙國政府ノ回答遷延事情内報ノ件	六〇六
三三三	九月 治二十五年	戸田駐塙公使ヨリ 大隈外務大臣宛	塙國政府ノ態度内探ノ件	六〇七

第八節 對 伊 交 涉

三三四	二月 治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)	至急交渉開始ノ義伊國政府ニ要請方訓令ノ件	六〇七
三三五	四月 治二十四年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	談判開始方伊政府ニ催促ノ件	六〇八
三三六	五月 治二十二年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛	談判開始ノ義ニ關スル伊國政府ノ態度報告ク件	六〇八
三三七	六月 治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)	談判開始ノ義重ネテ要請方訓令ノ件	六〇九
三三八	六月 治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)	伊國政府ノ回答催促ノ件	六〇九
三三九	六月 治二十四年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	伊國政府ノ全權委員ニ關スル件	六一〇
三四〇	六月 治二十四年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛	在本邦伊國公使ニ全權委任ノ件	六〇九
三四一	七月 治二十八年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)	伊國政府ニ對シ全權委任方再說ニ關スル件	六一〇
三四二	七月 治二十二年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛	伊國政府ヨリ修正簡條書提出ノ件	六一〇
三四三	七月 治二十四年	附屬書 伊國外相手交ノ修正簡條書	伊國公使ニ對シ同政府訓令ノ件	六一〇
三四四	七月 治二十二年	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)	伊國公使ニ對スル同政府訓令ニ關シ掛合方ノ件	六一五
三四五	八月 治二十四年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛(電)	伊國政府ノ訓令ニ關スル件	六一五
三四六	八月 治二十二年	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛	在本邦伊國公使ニ全權委任ノ件	六一五

三四七	明治二十九年八月	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛
三四八	明治二十九年四月	大隈外務大臣ヨリ 德川駐伊公使宛(電)
三四九	明治二十九年六月	德川駐伊公使ヨリ 大隈外務大臣宛

伊國公使ト交渉ノ經過通報ノ件	六一六
伊國政府ノ再修正案送達問合セノ件	六一七
伊國政府ノ再修正案交付ノ件	六一七

附屬書一 日伊和親通商及航海條約案	六一八
二 法典編纂ニ關スル宣言案	六二二
三 裁判權ニ關ル宣言案	六二三

第六章 青木外務大臣時代

第一節 對英交渉其他

三五〇	明治二十二年十二月	青木子覺書	條約改正全權委員奉受ニ關スル覺書	六二六
三五一	明治二十二年十二月	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	面會時日問合ノ件	六二七
三五二	明治二十二年十二月	青木外務大臣ヨリ 英國公使宛	面會時日問合ニ付回答ノ件	六二七
三五三	明治二十二年十二月	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	新提案ニ依ル談判開始方ノ件	六二八
三五四	明治二十三年一月	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	新提案ニ付問合セノ件	六二九

三五五	明治二十三年一月	青木外務大臣ヨリ 英國公使宛	新提案ニ關スル回報ノ件	六二九
三五六	明治二十三年一月	青木外務大臣ヨリ 河瀬駐英、德川駐伊兩公使宛(電)	草案修正ニ關スル件	六三〇
三五七	明治二十三年一月	河瀬駐英公使ヨリ 青木外務大臣宛	大隈案修正方英政府ニ申入ノ件	六三一
三五八	明治二十三年二月	開議決定覺書	大隈案修正ニ關スル件	六三二
三五九	明治二十三年二月	青木外務大臣ヨリ 英國公使宛	大隈案修正ニ關スル覺書送付ノ件	六四二
三六〇	明治二十三年三月一日乃至二十一日	埃伊英佛各國公使ヨリ 青木外務大臣宛	大隈案修正ニ關スル覺書領收ノ件 (一、二、三、四)	六五八
三六一	明治二十三年三月	青木外務大臣ヨリ 露國公使宛	大隈案修正ニ關スル覺書送付ノ件	六六〇
三六二	明治二十三年三月	露國公使ヨリ 青木外務大臣宛	修正ニ關スル書類領收ノ件	六六一
三六三	明治二十三年三月	青木外務大臣ヨリ 在歐米各帝國公使宛	大隈案修正ニ付テノ覺書送付ノ件	六六二
三六四	明治二十三年五月	西駐露公使ヨリ 青木外務大臣宛	我修正案ニ對スル露國側ノ態度ニ關 スル件	六六三
三六五	明治二十三年七月	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	英政府ノ對案送付ノ件	六六四

附屬書一 六月五日附英首相訓令書	六六五
二 英國政府ノ改正條約草案	六七〇
三 英國政府ノ議定書案	六八一

三六六	七明	治二十三日	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	改正書類機密扱ニ關スル件	六八四
三六七	七明	治二十三日	英國公使宛 青木外務大臣ヨリ	改正書類領收ノ件	六八四
三六八	九明	治二十三日	英國公使宛 青木外務大臣ヨリ	英國政府ノ對案ニ關スル件	六八五
三六九	九明	治二十三日	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	改正商議ノ爲メ登廳方ニ關シ回答ノ件	六八六
三七〇	九明	治二十三日	青木外務大臣ヨリ 河瀬駐英公使宛(電)	我提案ヲ英國側ニテ商業會議所ニ會議シタリヤ照會ノ件	六八六
三七一	九明	治二十三日	河瀬駐英公使ヨリ 青木外務大臣宛	我新案英國商業會議所ノ議ニ附セラレタリヤ否ヤ問合ノ件	六八七
三七二	九明	治二十三日	青木外務大臣提出修正草案		六八八
三七三	九明	治二十三日	條約改正ニ關シ内閣會議		六八九
三七四	十明	治二十三日	條約改正ニ關シ内閣會議		七〇〇
三七五	三明	治二十四日	條約改正ニ關シ内閣會議		七〇二
三七六	四明	治二十四日	條約改正ニ關シ内閣會議		七〇二
三七七	二明	治二十四日(假)	英國側ヨリ提出ノ條約草案ニ對スル我修正案		七〇四

附屬書	修正說明	七二九
別錄	修正草案ニ對スル青木外務大臣意見書	七三八

第二節 對 米 交 涉

三七八	三明	治二十四日	英國公使ヨリ 青木外務大臣宛	我修正案ニ付回答ノ件	七四七
三七九	六明	治二十四日	青木子意見書	將來條約改正ニ對スル意見	七五〇
三八〇	二明	治二十六日	米國公使ヨリ 青木外務大臣	日米新條約ノ修正及附屬問題ニ付通告ノ件	七五五
三八一	三明	治二十三日	青木外務大臣ヨリ 米國公使宛	日米新條約修正問題ニ關スル照會ノ件	七五六
三八二	三明	治二十三日	米國公使ヨリ 青木外務大臣宛	日米新條約修正問題ニ關スル件	七五七
三八三	三明	治二十三日	米國公使ヨリ 青木外務大臣宛	新條約修正問題ニ關スル件	七六〇
三八四	三明	治二十三日	青木外務大臣ヨリ 佐藤駐米代理公使宛(電)	米大統領ノ修正案ニ關スル件	七六二
三八五	三明	治二十三日	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛(電)	米修正案入手方ニ關シ回答ノ件	七六三
三八六	三明	治二十三日	青木外務大臣ヨリ 佐藤駐米代理公使宛(電)	修正案並ニ覺書ヲ各國公使ニ交付シタル件	七六三
三八七	三明	治二十三日	青木外務大臣ヨリ 佐藤駐米代理公使宛	米國公使ノ態度ニ關スル件	七六三
三八八	三明	治二十三日	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	日米新條約修正案入手方ノ件	七六五
三八九	四明	治二十三日	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛(電)	米修正案入手方ニ關シ請訓ノ件	七六六

三九〇	明治二十三年八月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	新條約ニ對スル修正案ノ件	七六六
三九一	明治二十三年九月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	在本邦米國公使ノ態度ニ關スル件	七六七
九三二	明治二十三年五月	青木外務大臣ヨリ 佐藤駐米代理公使宛	條約修正問題ニ關スル件	七六八
三九三	明治二十三年三月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	條約改正ノ儀ニ付紐育商法會議所決 議ノ件	七六八
三九四	明治二十三年一月	在紐育藤井領事ヨリ 青木外務大臣宛	紐育商業會議所本邦ノ條約改正ニ反 對ノ決議ヲ爲シタル件	七七〇
三九五	明治二十三年二月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛(電)	十一月七日附ヲールド紙切抜	七七〇
三九六	明治二十三年二月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	米大統領敎書ニ關スル件	七七一
三九七	明治二十三年三月	佐藤駐米代理公使ヨリ 青木外務大臣宛	十二月一日大統領ヨリ議會ヘ差出シ タル敎書中日米條約改正ニ關シ告知 ノ件	七七一
		附屬書	米大統領敎書抄萃	七七二
			日米條約ハ華府ニ於テ談判スルヲ得 策トスル意見申報ノ件	七七二

第七章 榎本外務大臣時代

三九八	明治二十四年十月	榎本外務大臣ヨリ閣議ニ提出セル條約改正ニ關スル斷案	七七六
		別錄 廢棄ヲ以テ現行條約ヲ廢止スルノ意見書、ロエスレル	七八五

三九九	明治二十五年一月	寺島伯條約改正舉行ニ關スル意見	七九五
四〇〇	明治二十五年三月	榎本外務大臣墨江私邸ニ於ケル協議ノ概況	八〇一
四〇一	明治二十五年四月十二日 乃至同年五月二十九日	條約改正案調査委員會日記	八〇四

	附屬書	一 寺島伯案和親通商航海條約并ニ條約案編成理由ノ説明	八〇七
		二 井上樞密顧問官提出不動産所有殖民地人民貨物ニ關スル實議 (第一書)	八二一
		三 第一書ニ對スル榎本外務大臣意見	八二二
		四 井上樞密顧問官提出條約廢棄ニ對スル意見(第二書)	八二三
		五 井上樞密顧問官提出不動産所有禁止ニ關スル件(第三書)	八二四
		六 第三書ニ對スル榎本外務大臣ノ意見	八二六
		七 井上樞密顧問官提出不動産所有禁止ニ關スル方法調査案(第 四書)	八二七
		八 寺島伯案第一條乃至第三條及ビ議定書ニ關スルデニソン氏ノ 意見	八二九
		九 條約改正案ニ對スル第一議 伊藤博文	八三五
		一〇 伊藤伯條約改正案ニ對スル第一議ノ所答 寺島宗則	八三八
		一一 伊藤樞密院議長提出條約廢棄ニ關スル件	八四〇
		一二 井上樞密顧問官提出沿海漁業ヲ内國人民ニ專屬セシムル意見	八四三
		一三 井上樞密顧問官提出議定書中ノ修正ヲ要スル件	八四八
		一四 榎本子案第十條海員逃亡ノ件ニ關スル一方案 中田敬義	八五〇
		一五 榎本子案議定書第三條旅行免狀ノ件ニ關スル一方案 中田敬義	八五三
		一六 議定書第二條中宿兵義務兵役及ビ軍用捐資等ノ免除ニ關スル 條款ノ説明 デニソン	八五四

四〇二 五月治二十五年 年

條約改正上奏案

- 一七 日本沿海貿易ニ關スル諸條約國ノ權利 デニソン 八五六
- 一八 バテルノ・ストロー氏意見書 八六四
- 1 對等條約ト非對等條約ニ關スル件 八六四
- 2 海關稅目ニ關スル件 八六七
- 3 沿海貿易ニ關スル件 八六九

八七三

附錄一 日墨條約締結一件

一	十月治十三五年 日年	高平臨時代理公使ヨリ 井上外務卿宛	日墨締約ニ關スル件	八七七
二	十月治十三五年 日年	井上外務卿ヨリ 寺島駐米公使宛	附屬書一 墨是哥公使ロメロヨリ高平代理公使宛書翰 二 墨是哥國政府ヨリ在米ロメロ公使ヘ宛テタル書翰 三 高平代理公使ヨリ墨國公使宛書翰 千六百年代墨是哥ト日本トノ修好通商ニ關スル略史	八七七 八七八 八七八 八七九
三	十月治二十八年 日年	大隈外務大臣ヨリ 黑田總理大臣宛	日墨締約ニ關シ回答ノ件 開議案	八八九 八八九
四	十月治三十一年 日年	日本國及墨西哥合衆國修好通商條約	別錄一 御批准案	八九一 八九九

附錄二

日葡條約一部條款廢棄一件

五	七月治二十二二年 日年	英國公使ヨリ 大隈外務大臣宛	二 外務省令并告示 三 大隈外務大臣ヨリ陸奧公使宛書翰 四 最惠國條款ノ解釋ニ關スルロエスレル意見	八九九 九〇〇 九〇一
六	八月治二十三年 日年	英國公使宛 大隈外務大臣ヨリ	日墨條約ニヨル最惠國條款均霑方ニ 關シ照會メ件 日墨條約ニヨル最惠國條款均霑方照 會ニ對シ回答ノ件 最惠國條款均霑方ニ關シ照會ノ件	九〇五 九〇六 九〇七
七	八月治二十二年 日年	佛國公使ヨリ 大隈外務大臣宛		九〇七

一	一月治二十五年 日年	榎本外務大臣ヨリ 在佛野村公使宛(電)	法權ヲ執行スル專務領事ヲ置クコト ヲ葡國政府ヘ勸告方ニ付電訓 帝國內ニ專任領事ヲ駐在セシムル様 葡國政府ヘ照會シタル旨上申ノ件	九〇八 九〇九 九一〇
二	一月治二十四五年 日年	在佛野村公使ヨリ 榎本外務大臣宛 附屬書 一月九日附葡國外務大臣宛往翰	葡國外務大臣回答通電ノ件	九一〇
三	一月治二十五年 日年	在佛野村公使ヨリ 榎本外務大臣宛(電)	在東京葡國總領事館廢止ノ件ニ付同 國新外務大臣ヨリノ回答書進達ノ件	九一一 九一一
四	二月治二十五年 日年	在佛野村公使ヨリ 榎本外務大臣宛		九一一

五	二明治二十五年	在東京葡國總領事館廢止ノ風評有之義ニ關シ訓令ノ件	九一二
六	二明治二十五年	帝國內ニ專任領事ヲ駐在セシムル様葡國政府ヘ照會方ニ關スル件	九一二

附屬書

葡國政府ヘ交渉ニ關スル訓令書

從來橫濱神戸ニ駐在セル葡國商人領事方訴訟事件取扱ニ付通牒ノ件

七	二明治二十五年	葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件	九一八
---	---------	---------------------	-----

在佛野村公使宛

帝國內ニ專任領事ヲ駐在セシムル様葡國政府ヘ照會方ニ關スル件

九一五

八	二明治二十五年	葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ關シ葡國公使ヘ照會ノ件	九一六
---	---------	---------------------------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

九	三明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
---	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一〇	三明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一一	二明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一二	三明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一三	三明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一四	五明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一五	五明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一六	五明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一七	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一八	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

一九	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二〇	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二一	七明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二二	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二三	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二四	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二五	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二六	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二七	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二八	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

二九	六明治二十五年	葡國公使ヨリ	九一八
----	---------	--------	-----

在佛野村公使宛

葡國政府專任領事制廢止ノ儀ニ付回答ノ件

九一八

目次細目

四一

二 七月十二日神奈川兵庫長崎各縣知事宛外務大臣通達……………九三六

二五 七月 治二十三日年 在佛野村公使宛(電)……………九三七

二六 七月 治二十五日年 在佛野村公使宛(電)……………九三七

二七 七月 治二十七日年 在佛野村公使宛(電)……………九三八

附屬書 七月二十日附葡國外務大臣宛野村公使書翰……………九三九

二八 七月 治二十七日年 在佛野村公使宛……………九三九

二九 八月 治二十五日年 在佛野村公使宛……………九四〇

附屬書 七月二十六日附葡國外務大臣來翰(譯文)……………九四一

三〇 八月 治二十五日年 在留葡國民ニ對テ裁判權執行ノ通知……………九四一

三一 八月 治二十五日年 葡國公使館及ビ領事館ノ處分方佛國代表者ニ依賴シタル旨通知ノ件……………九四二

三二 八月 治二十五日年 佛國代表者ヲ葡國臨時代理公使ニ任シタル旨通知ノ件……………九四三

三三 八月 治二十五日年 葡國外務大臣并ニ同國公使ノ電文内容ニ付キ同政府ノ内意探問方ノ件……………九四三

三四 八月 治二十五日年 葡國政府ノ内意探問ニ關シ請訓ノ件……………九四四

三五 八月 治二十五日年 葡國政府ノ内訓ニ關シ回訓ノ件……………九四四

三六 八月 治二十六年日年 佛國臨時代理公使宛……………九四五

三七 八月 治二十七年日年 佛國臨時代理公使宛……………九四五

三八 八月 治二十五年日年 佛國臨時代理公使會談筆記……………九四五

三九 八月 治二十五年日年 佛國臨時代理公使宛……………九四九

四〇 八月 治二十五年日年 葡國公使宛……………九四九

四一 八月 治二十五年日年 佛國臨時代理公使宛……………九五〇

四二 八月 治二十五年日年 葡國代表者委託ノ電報ニ對シ回答ノ件……………九五〇

四三 九月 治二十五年日年 佛國代表者委託ノ儀ニ付回答ノ件……………九五二

四四 八月 治二十五年日年 佛國臨時代理公使ヲ葡國政府ノ代表者ニ承任セシニ付通報ノ件……………九五二

四五 八月 治二十五年日年 日葡條約ノ一部廢棄ニ關シ訓示ノ件……………九五三

附屬書 一 日葡條約中領事裁判權廢止ニ關スル件……………九五五

二 六月十日外務大臣ヨリ「ルレーロ」氏ニ宛タル書翰中「其間」ナル語ニ關スル解説……………九六四

三 條約一部ノ廢棄ニ關スル「デニン」氏ノ意見……………九六五

四六 十月 治二十五年日年 葡政府我政府ノ行為ニ對シ抗議提出ノ件……………九六五

四七	十明	治二十五年	日年	葡國臨時代理公使ヨリ 陸奥外務大臣宛	日葡條約中領事裁判權廢棄ノ宣言ニ 對シ葡國政府ヨリノ異議通知ノ件	九六六
四八	十明	治二十五	日年	陸奥外務大臣對談筆記 葡國代理公使	明治二十五年十月四日外務大臣ト葡 國代理公使「コーラン」下、ブラン シ」ト談判筆記概略	九六九
四九	十明	治二十五	日年	葡國代理公使ヨリ 吳外務秘書宛	葡國政府ノ書信差進達ノ件	九七三
五〇	十明	治二十五	日年	陸奥外務大臣ヨリ 葡國代理公使宛	附屬書一 二十五年二月八日附葡國外務大臣ヨリ東京駐在總領事「ルレ ロ」宛信書	九七三
五一	一明	治二十六	日年	葡國代理公使ヨリ 陸奥外務大臣宛	二 葡國外務大臣ヨリ在京葡國代理公使宛書翰	九七四
五二	二明	治二十六	日年	葡國代理公使ヨリ 陸奥外務大臣宛	日葡條約中領事裁判權廢棄ノ宣言ニ 對スル葡國政府ノ異議承認難致旨在京 葡國代理公使ヘ回答ノ件	九七九
五三	二明	治二十六	日年	陸奥外務大臣ヨリ 葡國代理公使	在廣東葡國領事東京駐在領事ニ轉任 通知ノ件	九八一
五四	六明	治二十六	日年	葡國公使ヨリ 陸奥外務大臣宛	葡國領事館再設ニ付勅令第六十四號 停止云々ノ件	九八一
五五	十明	治二十六	日年	陸奥外務大臣ヨリ 陸奥外務大臣宛	勅令停止云々ノ書翰ニ對スル回答ノ 件	九八二
				附屬書 葡國政府覺書(譯文)	領事裁判權復舊要求ノ件	九八二
				附屬書 葡國公使ヘノ口上書譯文	葡國公使ヘノ回答案差進ノ件	九八八
						九八九

(終)

條約改正關係 大日本外交文書 第三卷

第五章 大隈外務大臣時代

第一節 一般的經過

一 明治三十一年十月二十六日 大隈外務大臣 會談記
獨逸代理公使

新條約締結方ニ關シ獨逸代理公使ト内談ノ件

明治三十一年十一月二十六日大隈外務大臣外務省ニ於テ獨逸國臨時代理公使ヲ引見シ(但シ兼約ニ因ル)左ノ書類ヲ同人ニ手渡シ本國政府ヘ通達スルコトヲ掛合ハレタリ其書類左ノ如シ

一 和親貿易航海條約

大隈外務大臣時代一般的經過

一 外國人ヲ判事トシテ我政府ニ雇入レ大審院ニ在職セシメ外國人ノ被告タル事件ノ最終裁判ヲ掌ラシムルコトニ就テノ外務大臣ノ宣言一
一 帝國政府ハ民法以下ノ諸法律ヲ編纂中ナルコト及發布反譯等ノ手續ニ關スル同大臣宣言一
右ノ外條約ニ附添スヘキ稅則、貿易規則並官設倉庫規則ハ尙ホ調査中ニ付不日脱稿ノ上送附スヘキコトヲ申添ヘラル右書類ヲ引渡スニ際シ外務大臣ハ陳述シテ曰ク